

平成29年度 第2回東濃看護専門学校運営協議会 議事録

日 時：平成29年12月25日（月） 14：00～15：00

場 所：東濃看護専門学校2F 会議室

出席者：（運営協議会委員）

佐藤多治見市副市長 勝瑞浪市副市長 加藤土岐市副市長

水野多治見市市民健康部長 宮本瑞浪市民生部長 酒井土岐市市民部長

今井多治見市市民病院病院長 元吉土岐市立総合病院院長代行

（東濃看護専門学校）

伊藤学校長 大澤副学校長 成瀬事務長 水野係長

（東濃西部広域行政事務組合）

水野事務局長 水野主任

欠席者：（運営協議会委員）

小山多治見保健所所長 塚本東濃厚生病院病院長

学校長あいさつ

（伊藤学校長） 今日寒い中、みなさん、どうもありがとうございます。東濃看護専門学校の運営協議会、お集まり頂きましてありがとうございます。結構難しい状況になっていますけれど、よろしくお願ひします。

1. 会長あいさつ

（加藤会長） 土岐市の副市長の加藤でございます。よろしくお願ひします。午前中にも1つ会議がございまして、多治見市の副市長さんが、25日というクリスマスに会議を開きまして「すいません」という話をしておられました。クリスマス、我々にはあまり関係ないのかなと思っておりますが、年末の非常にお忙しい中、お集まり頂きましてありがとうございます。今、院長先生の方からお話がございましたとおり、大変、入学生の問題とか、あるいは財政面の問題も含めまして、難しい舵取りが必要になってくるようなことになってきております。皆さま方には忌憚のないご意見を頂きまして、よりよい方向へ向かうようお願い申し上げまして、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

（成瀬事務長） （委員8名の出席により、会議成立の報告）

2. 議事

(1) 協議事項

1) 平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計補正予算 (案) について

(加藤会長) それでは、早速、議事の方に入らせて頂きたいと思います。できるだけ、忙しい皆さんばかりですので、手際よくやっていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。初めに協議事項 (1) といたしまして、「平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計補正予算 (案)」について、事務局の説明をお願いします。

(成瀬事務長) (協議事項 (1) について説明)

(加藤会長) ただ今ご説明のありました「平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計補正予算 (案)」について、質疑はございませんか。

(勝委員) 補正は補正でよいのだけれど、要は生徒が減ったので、(各市の) 負担金が増えるという補正ということですね。

(成瀬事務長) そうです。

(加藤会長) 先程、110人が99人になって、途中でやめたので98人・・・。

(成瀬事務長) 99人が年度当初で、110人との差の11人分は、前期後期の授業料の減額、前期中に退学者2人、後期の全期間休学者が1人で、3人分の後期授業料減額となります。

(佐藤副会長) 入学金はいくらでしたでしょうか。

(成瀬事務長) 1人10万円です。

(佐藤副会長) (当初予算の) 40人が、(今年度の入学者が) 34人で、減ったということですね。

(加藤会長) では、質疑が出尽くしたようでございます。「平成 29 年度東濃看護専門学校事業特別会計補正予算 (案)」は承認ということでよろしいでしょうか。

(承認)

2) 平成 30 年度東濃看護専門学校事業特別会計予算 (案) について

(加藤会長) では次に、協議事項 (2) 「平成 30 年度東濃看護専門学校事業特別会計予算 (案)」について、事務局の説明をお願いします。

(成瀬事務長) (協議事項 (2) について説明)

(加藤会長) ただ今ご説明のありました「平成 30 年度東濃看護専門学校事業特別会計予

算（案）」について、何かご質問はございませんか。

- (勝委員) 予算自体は特にはないのですが、負担金のところで、補正予算後の負担金と、(当初予算の) 組合の総括の負担金を見ると、補正前の額というのは既に固定しているので、今年度は、ここに書いてある額と違うと思うのだけど、来年度の予算額と補正後の額を比べてみた時に、多治見市は、今年の補正後の額よりも多いのが新しい予算になっている。土岐市も多くなっている。ところが瑞浪市は少なくなっている。計算は大丈夫なのか、という心配なのだが。補正予算後の額が、例えば多治見市だと 1,552 万 4 千円が、来年度予算額が 1,731 万 3 千円で、瑞浪市だと (今年度が) 704 万円で、(来年度の予算額が) 693 万円と来年度の方が減っている。普通は増えていくと思うのだが。多治見市、土岐市と増えていて、総額で増えるのなのらいいが、総額で増えずに。後で (補正で) 出してほしいと言われても困るので。
- (成瀬事務長) 1 つは、学生割がありますので。1 年前の 4 月の学生の居住地で割りますので、人口割はそう大きく変わらないと思いますので。
- (勝委員) 今は、この学生の居住地割と、人口割ということですか。
- (成瀬事務長) と、設置市の、土岐市の (特別負担金が)。
- (勝委員) 均等割というのはなくて、人口割と。
- (成瀬事務長) 人口割と学生割です。
- (勝委員) (広域の) 全体とは少し違いますね。広域の全体と同じであれば、大きな人口移動がない限り同じ率で変わってくるはずなので。
- (加藤会長) 年度内の変動は加味せずに、当初のということですか。
- (成瀬事務長) 4 月の時点の。補正もその当初の割合に応じて補正させて頂いています。
- (勝委員) 何人辞めようと、なんだろうと。まあ、どこかで決めないといけないですからね。そうすると 4 月の今の予想がということですね。また補正があるかもしれないということですね。
- (加藤会長) 両方並べてみると、ちょっと違和感がありますね。傾向としては、各市の負担金が 740 万円ほど増える予算で、使用料として入る分が 200 万円ぐらい減になると。
- (勝委員) 全体に、生徒が減少傾向にあるということですね。
- (水野委員) 全体では学生数が減って、例えば多治見市の学生数が増えるとか、そのような状況があって、多治見市の負担金が増えるという状況なのですか。
- (成瀬事務長) そうですね。圏域外の者は除いて、圏域内の学生の割合で、多治見市が何パーセント、瑞浪市が何パーセント、土岐市が何パーセントと出しておりますので、かなり、その年々の学生の居住地で変動が出てきます。
- (水野委員) 全体の学生数は減るということですね。
- (成瀬事務長) 今回は減るということを進めております。
- (勝委員) ただ、今は新入生が 40 人ですってあるので、入ってくる 37 人しか (一般入試の) 応募がない状況なので、これも補正の対象になると思うのです。

けど。とりあえずは、枠いっぱいを確保したいと。

(加藤会長) 二次募集をしてでも、ということですね。その他、新年度の予算案ですので、何かご質問があれば。

(佐藤副会長) 委託料の新規分で、13ページの「13 委託料」の「99 その他委託料」では「中長期整備計画」を25年経って必要ですと、この話は、なんとなく初めて聞いたような気がするのですが。過去に議論があったのかどうか。必要なのは十分分かっていますが。どういうところにどのような内容で、まあ100万円というのはしれた額ですけど、どんなイメージのものを策定されようとしているのか。概要をもう少し説明してもらえますか。

(成瀬事務長) 実は、平成20年に一度、同じような調査をしております、1つは建物自体、防水、その他を含めて劣化の具合を調査して頂きまして、大体、何年頃にどのあたりの修繕が必要になってくる、あるいは手をいれなければならない、というような計画。もう1つは設備機器、空調、電気の関係等の設備機器が、大体、耐用年数がどのくらいで、どのあたりで修繕し、あるいは交換が必要だということについて、計画を一度、平成20年に作っております。ただ実際には、それを確実に修繕しているというわけではなくて、不具合が出た状況の時に、対症療法的にしておりますので、それから随分、年数が経過しておりますので、更に色々な手を加えることが近々になってくると思われませんが、壊れてしまっただけということではなかなか大変ですので、少し近い将来、中長期の部分を含めて、建物の劣化具合について調査し、近々に手を打つものについては予算措置についてもお願いしていかなければならないというようなことで、今回、あげさせて頂きました。

(佐藤副会長) そうすると、むしろこれから、多分こういう所を直していかないと、20年、30年経ってくると、意外と大きいものが出てくる時期ですよ。空調やら、エレベーターやら、そういう所の、具体的に年度計画を立てて見直していくという、そういう材料を出すということですね。

(成瀬事務長) 建物自体は状態が良く、割合に学生が丁寧に使っておりますので、年数の割にはいいと思うのですが、やはりエレベーターとか空調関係につきましては、随分、能力的に落ちている部分もあると思いますので、いずれは手をいれなければならないと思っております。

(佐藤副会長) 参考までに、平成20年の時には、どういった会社がやったか分かりますか。

(成瀬事務長) 丹羽英二建築事務所をお願いしております。ここを設計している会社です。今回の参考見積もこの事務所をお願いしております。

(勝委員) 全然関係ない話ですけど、広域の施設というのは「公共施設整備計画」というのはなかったですか。

(水野事務局長) 各々で持っていますので、今の修繕計画というのは、各々で持っています。

- (勝委員) 各施設で、ということですね。
- (水野事務局長) 現状で今、所管している施設はここだけですので。
- (勝委員) 広域としてではなくて、それぞれの施設で整備計画を持っているということですね。実際、瑞浪市役所も今、耐震化等やっていますけど、空調は既に換えていますし、色んな意味で計画をしておかないと、大きなお金がいるということで、建替られるところはいいけれど、そういかないところは、(計画を) 考えておかないといけないなと思っていますので、どこかで、どうなるかは分かりませんが、建物の寿命を考えていかないといけないということですね。
- (水野事務局長) 余談にはなりますが、ここは「鉄骨造」で、通常は耐用年数が35年です。通常の耐用年数でいくと、ということです。で、25年経っていますので、通常ですとあと10年ということになりますが、この学校の運営も含めて、どのくらいこの建物を持たせるか、ということによっては、整備計画の期間も、例えば20年持たせようということであれば、当然、通常の耐用年数よりも長く持たせることになるので、例えば持たせるためにどこかで、何かしらの補修を早期にやるとか、そういったことも出てきますので、10年にするのか20年にするのか、少し悩ましいところかなと思っていますけれど、前回は20年ということで、一般的には20年の計画と聞いていますので、今のところは20年で考えています。
- (加藤会長) 現状で、特段、不具合はないのですか。
- (成瀬事務長) 今のところ、緊急にというところはないです。
- (勝委員) でもやっぱり、耐用年数でけっこうきますから。いきなり。気をつけておかないと。エアコンなどは耐用年数で。ずっと良くても、その頃になるといきなりくると困ってしまいますから。
- (成瀬事務長) 定期点検はしておりますので、例えば業者の方から「そろそろエアコンはねー」というような話は聞いておりますし、今回は計上しておりませんが、例えばコンピュータ関係も定期的に入れ換える必要もありますし、その他の事には承知しておりませんが、今年も何回か緊急に修繕している部分もありますので、それも経年劣化で壊れたような状況ですので、できれば予防的にそういうことを把握しておくことができれば、計画も立てやすいと思います。
- (加藤会長) 病院の先生方はよろしいですか。予算の話ばかりですが。縁がないかもしれませんが、このような形で予算を運用しておりますので。それでは質疑も出尽くしたようですので、「平成30年度東濃看護専門学校事業特別会計予算(案)」については、案のとおり承認ということによろしいでしょうか。

(承認)

(2) 報告事項

平成 30 年度入学試験の状況について

- (加藤会長) それでは続きまして、報告事項として「平成 30 年度入学試験の状況」について事務局から報告をお願いします。
- (成瀬事務長) (報告事項について説明)
- (加藤会長) ただ今、報告事項ということで「平成 30 年度入学試験の状況」ということで、推薦と一般についてご説明がございました。これについて何かご質疑ございますか。
- (勝委員) 推薦が少ないですね。多治見と土岐の准看護学校から（一般入試の）受験生が多いので、割と推薦が少ないということは、合格率の問題がかなり出てくるのではないかと考えているのですが。もし推薦してもらってれば。併願といっても、（この辺で）あまり併願できるところはないのでは。岐阜（准看護学校）や長野（の准看護学校）はいいんだけど。
- (成瀬事務長) 併願というと、岐阜市に 2 校、大垣市に 1 校、あとこの辺ですと名古屋と豊橋ですね。
- (勝委員) 多治見准看護学校と土岐准看護学校へ行っている人が、そちらと併願するというのは、あまり考えられないので、何とか試験で残ってほしいですね。大きいですからね。19 人というのは。その割には 2 校の推薦（入試の応募）が 5 人ですよ。
- (今井病院長) 推薦というのは、何人と決めているのですか。
- (成瀬事務長) 最大で、定員の半分の 20 人までは推薦の枠を持っております。ただ、なかなか 20 人まで推薦して頂いたケースはないのですが。枠としては、20 人ということで募集しております。
- (勝委員) 学校ごとの枠はないですよ。准看護学校ごとの。
- (成瀬事務長) ないです。
- (加藤会長) そこで 34 人の合格を出したけれど、17 人しか入学されなかったのには、何か理由が。
- (成瀬事務長) 結局、併願だと思ってしまうのですが。ここを辞退して、どこか別の受かっている学校へ進学されたというケースだと思います。
- (勝委員) 岐阜（の准看護学校）の人だとか名古屋の（の方の准看護学校）の人ですね。
- (成瀬事務長) そうです。
- (加藤会長) 結果として、17 人というのは圏域内の人の割合が多かったのですか。
- (成瀬事務長) そうでもないです。

- (加藤会長) ちょっと中期的な課題として、入学希望者の数が減少してきているということと、併願者が多くて合格しても入学して頂けないという傾向もあるようですけれど、これはある意味、やむを得ないといえはやむを得ない、ところだと思っております。これについていかがですか。
- (今井病院長) 看護師国家試験の合格率はいいのですよね。
- (成瀬事務長) 去年は、1人受からなかったので「96.7%」、一昨年は「100%」でした。ほとんど「100%」に近い数字で推移しております。
- (今井病院長) 経済的に、受験する人が少なくなってくれば、結局、運営もなかなか難しくなってくるのではないですか。
- (加藤会長) 今回の補正でも明らかのように、入学者が減ると、各市の持ち分が増えるという。平たくいうと税金でもってそれを賄わなければならない。
- (佐藤副会長) 資料4の関係で、この前、夜開かれました懇談会でもお話ありました、要は看護学生の需要といたしますか、将来展望として4年生大学の方へ行かれる方が増えつつあると、これは先程言われた、愛知の黎明高校、去年が12人であったのが(今年は)3人という、これはそういう点の現れということなのですか、皆さん、高校を出られた後、4年生大学の方へ行かれるという、そういう意味の現れなのでしょう。
- (成瀬事務長) この愛知黎明高校の場合は、ここで准看護師の資格まで取って本校を受験して頂いておりますので、この高校を出て4年生大学ということはないと思いますが、ただ、その准看護師の資格をとるための志願者の数は、減少傾向にあるように見えています。今年の入学生は、随分少なかったようです。
- (水野事務局長) 今年は12名応募といたしますか、受験されたのですが、最終的に併願等に流れまして、入学されたのは3名でした。ですので、必ずしもこの愛知黎明高校については、受験者数がそのままこちらの入学者数に結びついていないというところもあります。その理由としては、やはり名古屋の学校ですので、例えば八事の方であるとか、名古屋の方にも専門学校がありますが、そちらの方に。例えば併願かけられて、大体はそちらの方へ流れていきますので、今回、そういう意味で言うと、最初からそちらの方へ行かれる方はそちら一本で受験されてたりですとか、本当にこちらの方へ来て頂くつものある様な方が3名、来て頂けてるのかなと思っているのですけれど。去年は12名のところ3名しか入学がありませんでしたので。一方で、可茂准看護学校からが、今年多いので、そういった身近な所からの学校の方から、現実的にこちらへ来て頂くということの方が、いいのかなといたしますか現実的なのかなと思っているのですが。受験者数としては、それほど昨年と変わっていないのですが、受験生の中身が少し、構造が変わっているのがあります。
- (佐藤副会長) 昨年度の大幅な減の理由の1つが、土岐准看護学校(からの応募者の減)

と聞いていますが、今回は来て頂いたということですね。

(加藤会長)

その他、何かご質問等ございましたら。それでは、この報告事項につきましては、意見も出尽くしたということでございます。今井先生の方からもご指摘のありました、今後、受験者数の減少といったようなことがあれば、色々考えなければならないということもありますので、中期的な課題としてとらえて頂きたいと思います。以上で議事は終了しました。議長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。

3 その他

1) 平成 29 年度の主な行事等

(成瀬事務長)

(「平成 29 年度の主な行事等」について説明)

2) 平成 29 年度第 2 回東濃看護専門学校懇談会の報告

(水野事務局長)

去る 11 月 29 日に東濃看護専門学校懇談会を主催させて頂きました。その中で、先程来から話がでておりますけれど、今年度につきましては、学生数が昨年度と比べまして減ったということのご報告をさせて頂きました。理由といたしましては、繰り返しでございますが、今年度 1 年生につきまして、入学者が少なかったというのが大きな理由でございます。国の方のこういった看護師養成に係る傾向について少し、当日、お話しさせて頂きまして、先程、話が出ましたように、近年、看護学校の養成というのも国としても重要な事項だということにはなっているのですが、学校の傾向といたしましては、4 年生を含めて看護大学の設置が、最近は多くなっていると。逆に准看護師の課程であるとか、看護師の、当校でございますけど、2 年課程の学校につきましては減少傾向にあると、というようなことの報告もさせて頂いたところでございます。また繰り返しになりますが、入試につきましては、懇談会の開催当時は、推薦入試の状況が分かった段階でございましたので、その状況の報告もさせて頂いたということで、先程、少し話に触れませんでしたけれど、今年度推薦入試の方でも、学校の PR を行った結果、済美高校というところから新たに 2 名の方が来て頂いたというようなこともございますので、少ないながらも、そういった成果もあったと考えてございます。また卒業後に、その地域の医療機関の方に定着して頂くという趣旨で、学生向けの修学資金の貸付制度というのをやってございます。各学年 15 名ということで、昨年は 15 名募集したところ、6 名の応募しかございませんでした。今年度は 13 名ということで、昨年から比べれば少し復活したのかなとは思っております。そのあたりのご報告

もさせて頂きました。最後に各委員の方からご意見頂く中で、例えば多治見市民病院さんの方からは、看護学校の受け入れ、実習科目等も、来年からまた新たに増やしますとのご意見頂きまして、学生の就職先の選定の時も、実習先の印象というのかなり大きいということを考えておりますので、そういった意味ではありがたいなというふうに考えてございます。県内に准看護学校、比較的、全国を見ると岐阜県は多くあるということもございまして、そういう意味では、准看護学校の卒業生も多く輩出されるということでございますので、全国的にみても准看護学校の学校数であるとか減っている中でも、岐阜県においては、ここは全国に比べても多い方だということもございまして、一層、学生の受け入れに対しては、学校PRも含めて一生懸命やっていきたいとのご報告をさせて頂いたところでございます。以上でございます。

(成瀬事務長) その他に何かございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それではこれを持ちまして、平成29年度第2回東濃看護専門学校運営協議会を終了させて頂きます。今後も当校の運営につきまして、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。